



ありすママの  
東大に行ける子を育てる親学



村木 有子

## はじめに

はじめまして！

ありますママこと、親育てアドバイザーの村木有子と申します。

まず初めに「親育て」って何？ とお思いでしょうか？

「親育て」とは、親が子どもの才能や能力を開花させるためにより良く導き、健やかな成長を願い、我が子とつての良い親になるように子育てを学び、親子が共に成長していくことです。

皆さまが普段見聞きするのは「子育て」という言葉ですよね。

その「子育て」とは、子どもの健やかな成長を願い、我が子をより良く賢く健康に育てることです。から、子ども自身に直接アプローチをすることです。

そのため、ほとんどの子育ての本は、子どもをどうしつけるのか？ 子どもの能力をどう伸ばすか？ 賢い子に育てるにはどのような能力が必要か？ という子どもへのアプローチの方法が書かれていることとなります。

当然子育てのための方法論は大事ですが、親が子どもを変えよう、子どもの能力を伸ばそうと何かを与えただけ、何かを習わせるだけ、またはああしろこうしろと躍起になってアプローチをしても、子どもはなかなか変わっていかなかったという経験はおありじゃないでしょうか？

「親と子は合わせ鏡」です。

ただ子どもを変えようとばかりしても、肝心の親の態度や言葉がけ、信念が変わらなければ子どもは変わりません！

実は私も、方法論ばかりを追求して大失敗をした経験があり、親が変わることの大切さに気づき、その気づきを伝えたい気持ちがこの本を書くきっかけとなりました。

このような思いから、本書では「親の存在は子どもにとって最大の環境の一つ」と考えて、親としてより良い子育てをするためには、

親の役割って何だろう？

子育てをするにあたってのビジョンとは？

最小集団である家族の意義とは？

親の態度、行動、言葉、がけはどうやるの？

という、親がどうあるべきかについて書いておられます。

親がこの世に子どもを産み育てるということは、社会にとって有望な人材を送り出すという一大プロジェクトですから、親自身が切磋琢磨<sup>せつさたくま</sup>して親子共々成長することなしに達成されません。

そんな思いから、私が実際に息子を育てた経験や体験、失敗などから導き出したオリジナルの「ありす式親育て法」という親学を学んでいただくことで、皆さまも共に世の中に有望で必要とされる人間を育てていけることと信じています。

さて「ありすママ」の「ありす」って何？ と、お思いでしょうね。

これは私が高校に入学して仲良くなった、今でも交流のある親友2人とマンガ雑誌を回し読みしていたとき、ある主人公の「有子」に「ありす」とルビが振ってあったことが始まりです。それ以来、高校、大学と「ありす」がニックネームとなり、今ではSNSでつながった方々からも、「ありすさん」「ありすママ」と親しみを持って、お声をかけていただきます。

まずは、そんなありますママの実践してきた子育て内容をお読みいただき、どんな思いで子育てをして、どんなことを実践してきたのか、ということからひも解いていきます。

そして現在子育て中の方、もしくはこれから赤ちゃんが生まれるという方、また赤ちゃんが欲しいと願っている方などに、この「あります式親育て法」を読んでいただくことで、より良い親となるための気づきや学びのきっかけにさせていただけたらうれしいなと思います。

「親が変われば子どもの未来が変わる」

という親と子の幸せな未来のために、私の本がお役に立てれば幸いです。